

昭和四年一月二十二日招集

第一面市議會臨時會々議錄

館山市議会第一回臨時会会議録(第十号)

昭和四十年一月招集

一月二十二日(金曜日)

一現在議員三十五名でその氏名次々とおり

一番吉田勇治郎

二番鈴木正一郎

三番小柴孝

四番館石伝蔵

五番田中禄郎

六番秋山六三郎

七番田村源治郎

八番望月照正

九番安西益男

一〇番辻田実

一番石井正

一二番黒川佐太郎

一三番菊井敏博

一四番志村信作

一五番小沢恵太郎

一六番関武夫

一八番西村真次

一九番藤田好治

二〇番保科忠夫

二一番江田徳太郎

二番 君塚喜三

二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎

二五番 萩生田七郎

二六番 鈴木孝

二七番 鴻田繁

二八番 山田教宇

二九番 鈴木市蔵

三〇番 安藤竜吉

三一番 安次徳順

三二番 三沢節

三三番 高橋文治

三四番 山本昇

三五番 松本藤太郎

三六番 山口康

一、議事日程(第一号)

第一、議案第一号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費

用弁償に関する条例の一部を改正する条例の

制定について

第三 議案第二号

昭和三十九年度館山市休養施設特別会計補

正予算

議案第三号、昭和三十九年度館山市館山エースホテル特別会

計補正予算、

第三 館山市厚生管理委員会委員及び補充員、
一、該第二百一十条による出席説明員、

市長 本間 謙

助役 小出 武男

秘書課長 小倉 登男

財政課長 長谷川 広治

庶務課長 山口 実

観光課長 小沢 正治

福祉事務所長 鶴沢 貫寛

厚生書記長 大嶋 重義

一本議会、事務局長、事務局長補佐、書記及び職員、

事務局 長 高梨 清一

事務局長補佐 太田 博 雄

書 記 兵 藤 恭 一

取 員 錦 織 睦 子

一 出席議員 三十四名

一 欠席議員 一名

一 五番 小沢恵太郎

午前十時五分 開議

・議長(黒川佐太郎君)本日出席議員数三十二名。

こいより昭和四十年年度第一回市議会臨時会を開会いた
します。

本臨時会より議案説明のため本間市長、小出助役、小倉
課長、山口課長、長谷川課長、小沢課長、鶴沢所長、

大嶋書記長。以上うき席を求めまいたうで市報告いたしま
す。

監査委員より報告のありまいた十二月実施の例月検査
報告はお手元に配付のとおりであります。

議案を配付いたさせまいた。

議案の配付漏れはありせんか。——と認めます。

会議録署名員の決定を行ないます。

本臨時会より会議録署名員に一四番議員 志村信作
君、二七番議員 嶋田繁君以上兩名を指名いたします。
これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって決ま
ります。会期の決定を行ないます。

本臨時会より会期につき議案を協議会より意見見は、

本日一日ということであります。

おはかりいたします。

会期を一日と定めますことに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決定いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。まず、市長の本臨時会招集の案件について説明を求めます。

(市長登壇)

(拍手)

市長(本間謙君)ごあいさつ申し上げます。

昭和四十年の新春を仰え、館山市民とともに慶賀に附えたい次第でございます。

さて本日上程いたします付議事件といたしましては、櫻峯

管理委員会より委員並びに補充員が任期満了による
選挙及び一般議案として、また、関係の議案として
非常勤の特別取り扱員にかかる報酬及び費用弁償に
関する条例の一部改正でございますが、これは特に児童の
家庭における人間関係の健全化、及び児童教育の適
正化と家庭児童福祉の向上化をはかり相談指導、援
助を樹立強化するために厚生省より通達によりモ
デル市として指定され、早急に家庭相談員二名を配置
するものであります。

予算関係につきましては、休養施設特別会計及びユ
ースホテル特別会計五十四万五千円余の補正をお願い
するものであります。

詳細につきましては、関係課長より説明申し上げます。
で、よろしく審議をお願い申し上げます。(拍手)

・議長(黒川佐太郎君) 日程第一 議案第一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第一号 非常勤の特別取組職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
の決定について。

・福祉事務所長(鵜沢貴寛君) 議案第一号につきまして市説明
申し上げます。本案につきましては、家庭相談員に月額
一万二千円の報酬を支給しようというわけでございますが、
ただ今、市長の提案説明にもありまして、家庭相談員
につきましては、少くや説明申し上げたいと思っております。

本年度厚生省の事務次官通達に基づいて、家庭児
童相談室運営要綱というものが示されています。それに
基づきますと、その目的は家庭児童相談室は、家庭における
適正な児童養育、その他家庭児童福祉の向上をは

かるために福祉事務所、家庭児童福祉に関する相談指導業務を充実強化するため設けるものであるというところでございます。

その業務とするところは、家庭相談室においては、福祉事務所が行なう家庭福祉業務のうち専門的技術をもつて行なうものとするということでございます。

そうゆう取員といひまゝして、家庭相談室には、家庭福祉に関する専門的技術を必要とする業務を行なう取員として家庭児童福祉に従事する社会福祉主事及び、家庭福祉に関する相談指導業務に従事する取員、こゝが家庭相談員でございます。その家庭相談員を配置するということでございます。

こゝ取員の家庭相談員の資格でございますが、家庭相談員は都道府県または、市町村の非常勤取員として

人格開顯円満で社会的信望があり健康で家庭児童福祉の増進に熱意を持ち、次にかかげるものより一つから任用しなけねばならない。 学校教育法に基く大学または旧大学において社会福祉社児童学、心理学教育学

もしくは社会学を専修する学科 またはこれらに相当する課程をとおさめて卒業したもろ二、技師三が社会福祉主事として二年以上児童福祉事業に従事したもろ、四が前項に準ずるもろであつて、家庭相談員として学識経験を有するもろ、これが資格でございます。 この資格は児童福祉司と同ト資格でございます。 家庭相談員の職務といつては、家庭児童福祉に關する専門的技術と必要とする相談指導業務を行はう、ということになっております。

この家庭相談員の報酬月額一万二千円及び家庭児

重相談室、運営に関する費用、このうち四分の一が国庫負担、四分の一が県負担、四分の一が市負担ということになっております。ただ今申しあげましたように家庭相談員が二名、福祉主事一名、庶務を担当する事務取員が一名、合計四名で運営するということになっております。

附則にございますように、この条例は、昭和四十年二月一日から施行することになっておりますが、本市におきましてもこの家庭相談室の設置を二月一日から設置したいという案でございます。以上で説明を終わります。

三五番（松本藤太郎君）モデル地としてこのように福祉関係の指導或いは管理面でござるということは結構でございますが、ただ今課長さんがおっしゃられた家庭児童相談室という設置ですが、或いは定数四名、こういったような市の条例化さないでよろしいものかどうかその点をお伺い

たいます。

・福祉事務所長(鵜沢貫寛君)これは専門取といたいます。条例でなく規則で制定すればよいということになっておりますので規則で制定いたいたいと思っております。

・三五番(松本藤太郎君)市は非常勤で特別取という一つ取員であつて、それが条例でなく規則でいいということですが、それはどういった規制によつて規則でいいか、教えていただきたいと思ひます。

・福祉事務所長(鵜沢貫寛君)市説明申上げます。

地方自治法百七十四条に専門委員というのがございます。普通地方公共団体は常時または臨時に専門委員を置くことができます。

二「専門委員は専門の学識経験を有するものの中から普通公共団体は長がこれを選任とする。専門委員

は、普通地方公共団体より長より委託を受け、その権限に属する事務に就する必要な事項を調査する。

四、専門委員は非常勤とする。ここに専門委員の設置は規則をもって設置することが適当であるという実例の判例になっておりますので、それによりたいと思つてわけでございます。

・三五番(松本藤太郎君)よくわかりましたが、地方自治法より百七十四条でいう専門委員というのも特別取り扱員に係る報酬及び費用弁償というふうな条例で給与の面を条例で規定して受けるそのものが規則だけでいい。自治法より百七十四条にある専門委員だからいいのだということになるかどうか。

いま一度その点を納得するべくよく中々説明願いたいと思います。福祉事務所長(鶴沢貴寛君)非常勤の特別取り扱員は条例で定めなければならぬということとは明確に書いておりますが、

ただ今申し上げました家庭相談員は、私たちの解釈では、専門委員として解釈したわけでございますので、規則で定めるということに解釈したわけでございます。

・三五番(松本藤太郎君)何か根拠というものがはっきりつかめないんですが、それでなければ結構でしょうが、私たちが議案を見たときに市費を投じ、或いは県費、国費を投じ、もつと今後日本がこういつたような制度を全国に拡充して、いこうという一つのモデルだと思う。そういう場合に市費を投じておきながら、しかも給与を条例でふりながら、それを受ける取員が設置、或いは定数というふうなものも条例でないということは、不自然なような感があります。で伺ったわけです。

それで間違いないければ結構でございますが、そういったような意味で伺ったわけです。

あんたが考えただけではいけない。そういつたような法に基づいて、
或いはそういう指示によって、こゝでいいのだということではなく
あんただけが考え方でやったというんです。が、それで間違ひ
なければ結構ですが、一か一もういっぺん。

○福祉事務所長(鶴天貫覚君) 私だけが考えということでございますが、こゝは先ほど市長さんが申し上げましたように本年度から五カ年計画で全国に福祉事務所に設置しようという厚生省の案でございます。

本年度は千葉県におきましては、館山、銚子、東金、三
市と二支部に置くということになっております。

銚子では決定しておりますが、やはり規則で設置してお
りますので規則でさうつかえないというふうに私も考え
たわけでございます。

○一番(辻田実君) ただ今に関連して私は違った角度からお

伺いたいわけでございます。私が今は今一点につきまして、非常に不審であり、納得いかなかったわけですが、と申しますのは、私は明らかに執行部が提案のミスというふうな解釈してゐるわけでございます。そしてその点について、訂正なりまた再提出の要があるということについて、細かく質問したいわけでございます。

まず第一に伺いたいのは、家庭相談室の設置の法律なりその法律に準ずるものがあるのかどうかということでございます。今まで、館山市にありますところの社会教育委員、スポーツ振興委員、いろいろについては社会教育法とか、スポーツ振興法、そういう法律の中において、このいふ、こういう仕事をすゝるの、で、こういう委員を置く、各市町村に置いてもらいたい。こういう法律に基いて委員が選出されてゐる。そういう法律に基いて明らかにされてゐるものについては、規

則て委員を設置してある場合がありますが、家庭相談員を置くという法律なり、法律に準ずるものがあるのか、ないのか、その点をお伺いしたいと思います。

福祉事務所長（鶴沢貴寛君）先ほど申しましたとおり、この家庭相談室の設置につきましては、厚生事務次官からの通達によるものでございまして、法令によるものではございません。

厚生事務次官 通達によって家庭相談室設置要綱というものを示さるまいで、それによる設置ということでございます。一々番（辻田実君）設置条例というものをある程度明らかにするということがなされるかは、ミスではないか、そういうことがなければ私は間違ひではないかというふうに思っておりますわけでございます。

先ほど答弁の中で銚子市において、そういうことをやった

と申されておりますが、私はこの点につきまして三重県
福祉協議会、終会におきまして家庭児童相談員につ
いては、役上なければならぬ、思いつきで次官補律を
ふくめてはいけません。その席上、参考になるかどうか
ませんが、話合の中で役人に聞いたんで、その場
合に明らかに各市町村で条例なり、施行方法というもの
を作つてその上立つて相談員を設置するのは、まあ、ない
と思う。根拠はなくても、条例で根拠を示せば持つてゐる。

そういう形で家庭児童相談員というものを置いたとい
うことを聞いたわけでございます。そして、そうすることが妥
当である。法律的根拠のない場合に相談員を置くということに
ついて慎重にあらなければならぬということも強く感得て
おるわけでございます。当然、館山市としても設置条
例というものが提案されるものと思つておりまして、それが

おてこない。これは、執行部がミスではないかというふうな思ひ
おきますが、その点はどのようにお考えになるか。

設置要項というものが、どういうものであるか。明らかに
してもらうてからやらないと議会としても承認するわけ
にはいかないと思ひつておきますが、その点詳しく中説明願
ひたいと思ひうわけでございます。

福祉事務所長(鶴沢貫寛君)先ほど申しましたように厚生
省の次官補(澤)による実施要項によつて設置しようとい
うものでございまして、規則で制定すればよろしいという
規程に立つてあえて条例として制定しなかつたわけ
でございます。

一〇番(辻田実君)それでは、態度を明らかにする前に聞いて
おきたいんですが、厚生省の方から県に対して今年五
地区位をモデル地区として設定して、その地域でもって家

庭児童相談員というものをやってもらいたい。

設置要項についてはよく知りませんが、法律的根拠も具
体的内容の根拠もさうに依つておるわけでございます。
そういう状態で果にあてがわいて果でも上から押し付けら
れて困つておる。たまたま五つ々市町村において引き受け手が
あつたからその結果を見て、来年再来年は実施して
いかなければならぬ。こういうことを聞いてきておるわけ
でございます。館山も大へんでしうが、お願いしたい。この
うことをいわた。上からきたから館山は又たという
がする。

従つて館山市としては、児童福祉法、そういうものに基づいて
保護司だとかさらに民生委員というものを作らうて活
動する中においてさらに家庭相談員というものを置
いてそれらの関係とどうやうに關係して活動を進めて

いゝか。さらに不良家庭児童というものが、どの位あるか。それが明らかにならな上でもって、館山市は、こういう相談員制度を作らなければならぬという必要性があつて設置したものでどうか、私は、この点についてどういふものが明らかにならないで上からきたから受け入れる。条例で制定しないでもって相談員制度を設置するといふように伺わねんですが、その点についてどういふにも考えが、お答え願ひたいと思ふわけでございます。

・福祉事務所長(穂沢貴寛君) 現在館山市におきましては、俗にいう問題児、そういう場合、措置につきまゝでは、安否支庁に見童福祉司というものがございまして、それに連絡をまゝして措置していくという状態でございます。市におきましては、直接、それを取り扱うという制度がないわけでございます。

山崎 三
そう、う関係で、こゝ次官通津にもございます。すうに、社会の変動によつて、今後児童問題がますます重要化してくるということで、直接市におきまして問題見の相談に応ずるためには、市に相談室を設置することが必要であるということ、の見解のもとに設置したわけでございます。

一 番(辻田 実君) ただ今、中答弁は、答弁にならぬ。

私は、そういつておるけれども、館山市に、そういう必要があるか。必要がある場合に、こゝういう点について、こゝういう必要があると、いうことをうたった条例というものが、館山市にありにあるのではないか。従つて、そういうものを明らかにしてもらいたい。そういうものを明らかにするの、は、本来であれば、条例であるべきではないか。

その条例というものを、おさないうところ、に不備がある

というところでございまして、先ほども社会の変遷によって、
不良児があるであろうという前提のもとに置いた方がよいだ
ろうというておりますが、館山市は、民生委員と青少年相
談員というものも設置されて、百四十人もおる。そう
いう指導員がたくさんおる中に、あえてこういうものまで
おらなければならぬという事情が起きておるのかどう
かという点が明らかになって、そうして、こういう状態だか
ら、是非とも、置かなければならぬということになる。
ではないかと思うわけでございますが、そういうものが一つ
もない。

特に私は、それと関連して先ほど答弁にしておりますところ
の家庭児童に対するところの専門的な指導をする
るということといたしておりますが、専門的というのは、どう
いうことか、館山市は専門的な指導をするというけ

ども指導する必要がどの程度あるかということと、その
ういう点も含んで内容を明らかにしていただきたいと思います。
うわけでございます。

・福祉事務所長（鶴又貴寛君）家庭相談室、必要でござ
いますけれども、先ほど申しましたように問題児がで
きた場合に現在では、安房支庁に駐在しております
児童福祉司に連絡しまして、相談指導によって処置し
ている現状でございます。

現在におきましては、館山市では、大いな問題児が出て
おりませんが、まだ表に出ておられない問題児もございま
す。市におきまして、家庭相談室を設けて、常時相談指導
に応じらる態勢に置くということは、是非とも必要
であるということを考えております。

そういう意味で、この際、相談室を市に設けて児童福

社の強化に努めたいというふうに考えております。

一、番(辻田実君)児童福祉司というんですが、保護司と同じだと思ふんですが、全然違ふものか、保護司はそういつた児童福祉司も含んでやるのではないかと思ひますが、

保護司の場合、各地区に市長さんも、保護司になつておられますが、館山市に民生委員、児童委員というものがあつて、児童委員も、部部落一名ずつ、配置されておる。

極端な一方をすれば、その人たちの活動ではどうにもならない。役にたかない。こういう結論に達すれば、この家庭相談員というものがかつてやるといふことになると思ひますが、私は決してそういうものではないと思ふ。

児童委員、民生委員にしろよくやつておる。

保護司というものについても、今までの制度の中でやつておる。その中に屋上屋をかさねるもので、上からいわたからさる。

金も全部まわなつてくればいいですけれども、四分の一負担して主事と取算も二名置かなければならぬ。いろいろな経費をかけて上からいわたから置くということについては、納得ができない。言ひ過ぎかもしれないが、その点もうサ一説明していただきたい。今までの答弁では、そういう面々回答になつていないというふうに思われるんですが、

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午前十時 四十分 休憩

午前十一時 十七分 再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き本会議を開きます。
議案第一号に関する質疑を続行いたします。

・福祉事務所長（鶴沢貫寛君）先ほどの辻田議員さんの作問にお答えーたいと思います。児童保護司と普通の司法保護司とは全然違います。

児童保護司の方は問題が起こる前の指導や相談という業務でございます。

なお、児童委員との関係でございますが、児童委員は、本来の業務であります問題児の発見、そういうものに利用する。家庭相談員或いは児童福祉司が活動するということになっておりますので、児童委員との協力によってこの家庭相談室の機能がよりいっそう発揮されるということになると思います。

それから条例との関係でございますが、やはり専門委員という解釈のもとで条例によらなくても規則で制定すればよいという解釈のもとに条例としては出さなかったということ

でございます。

それから館山市が指定されたかということでございますが、これは果う考えとしましては、千葉市に児童相談所がありまして、比較的児童相談所から遠い地区、銚子、館山、東金が選ばれたわけでございます。

一〇番(石田実君) 法規的なものについては、ここで論議しても平行線となりますので、その点については、もうスー執行部としても、基本法がないものを扱う場合、慎重にしていきたい。この点は打ち切ります。

二番目の内容ですが、それでは納得がいかないんです。

関係については、児童委員、民生委員等協力するということでございますが、そういうことであるならば、実際に館山市においては同一のもうだ。

そういう面では、通達であろうが、何であろうが、館山市に

において、必要性のないものをやる必要はない。そういう面で民生委員・児童委員という方がこの必要性を感じておるか、お聞きしたい。

それから今、館山市について社会が変遷して、不良児童、不良家庭というものが多く出ておるか、そういう問題について困っておるか、簡単にいいですから、その点合わせて説明願って相談員を置かなければならないという説得ができるような応答をいただきたいと思うわけでございます。

・福祉事務所長（鶴沢寛覚君）児童委員さんへ意見ということでございますが、これは去る八月に民生委員会がございまして、そのときに話をしております。

全体の民生委員に對しましては、二十五日終会がございまして、そのとき話したい。事前にそのことにつきましては民生委員さんにほとんどお話してございません。

青少年の問題児でございますので、館山市の場合は、
 そう凶悪な問題児というものは、今のところ出ておりませんが
 敬告寮署長の話なんかによりますと表に出ない問題児
 も相当あるように聞いております。相談室ができますと
 そういふようなものも相当数相談を受けられるようになるう
 ではないかということをご心配しておりますので、実際に
 は、そう多くは相談が持ち込まれていないという現状ではござ
 いません。ただ、児童委員さんも、こういう相談に参つて
 参りまして、それは一般的な相談でございまして、専門的
 な相談になると児童委員さんや手におえないことになる
 と思います。

そういうものに対する専門的な指導等ということに家
 庭相談員が対するということになるわけではございまして、
 職務は全然違ふ専門的な技術を要する職務ということ

になるわけでございます。

・助役（小出武男君）こういう施設を置く必要性ということですが、この点については、今課長からお話申し上げたことで尽きるところだと思いますが、付け加えて申し上げますならば、この制度を市で今持ったらいいかどうかということについては、井田議員と同様に私は相談したわけでございます。

ただ単に天下り式なものをそのまま受け入れるということは、常々課長会議にも提唱いたしまして、注意しておる考え方でございます。この問題について検討いたしまして、結果、先ほどから説明しておりますように、その分野と違いますが、さらにまた政府が提唱しておる人作り、問題に関連いたしまして特に青少年の今後、補導等というものが、非常に大きな話題になっているわけでございますので、現時点において、その数があるということですが、今後を予

想します。さらにまた課長が言いましたように、青少年
の非行の傾向がだんだん低学年層に移行しつつあると
いうことまで言われておる現状からいって、今すぐ対
象人員が狭らでゐるということではなくて、今後、対策を予想
し、まいて、ミニ人作りの一環としてこの制度を設けたい。
さらに付け加えますならば、一つモデルとしてやるということ
でもある。さらに必要経費も極めて僅少な経費で、
あつて、その仕事自体が重要であるということ、この際、
制度を取り入れることに決定をしたわけでございます。
ただ今、何人あつてどうか、必要性があるということは、今後
の問題にかかつてこれが予防し、そういうことにならないよう
するため、方法として、今回取り入れたということを申し上
げられたと思います。

○一〇番(辻田実君)内容について了解しました。一か一ながら

三月に執行されていますところの青少年問題協議会についても、いまだにその委員の人数が終っていないという状態です。青少年問題協議会は基本法に基いてやっております。そういうものもまだやらんていない。

何か熱意がないという気がするわけでございます。そういう点について私は非常に不満でありますけれども、質問を打ち切りたいと思うわけです。

ただ一つ、先の議会でもって決定された非常勤の特別取の報酬を定める場合の報酬審議会等にかけるければならぬということになったわけでございますけれども、その方にかけた方が、またはその必要性に該当するかどうか、その点お伺いしたいと思うわけでございます。

助役(小島武男君)先議会にお願いたした特別取報酬について、審議会でございますが、これには該当いたしません。

と申しますのは、第三系ですか、それにちんとかけることが制限
いたしておるわけでございます。

こゝは市長、助役、収入役、議会議員、こゝに限った条例に
考えております。

議長（黒川佐太郎君）本案はこゝにて質疑と打ち切り、討
論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

（「異議ナ―と呼ぶ者あり」）

議長（黒川佐太郎君）異議ナ―と認めます。よつて本案は原案
通り可決されました。

日程第二、議案第二号及び議案第三号を一括上程いた
します。

（書記朗読）

議案第二号 昭和三十一年度館山市休養施設特別会計補正

予算

議案第三号

昭和三十九年度館山市館山ユース・ホステル特別

会計補正予算

・商工観光課長（小沢正治君）議案第二号及び第三号について一括で説明申し上げます。

議案第二号は休養施設鳩山荘に関するものでございます。賃金におきまして十七万円、需用費におきまして二十八万円、備品費におきまして九万五千円、五十四万五千円を増加をお願いするものでございます。

内容につきましては、各説明の付記にございますように、需用費におきまして二十八万円、不足額を生じました。おもな原因といたしまして、昨年十一月に簡易水道を引き込んだ関係で、この水道料が約三万という額にわたる中で、ほかの需用費から一応現在まで支払いたまうて参つたわけでございますが、年間通じますと、約二十八万の不足を生ずる見込みで

でございます。で、この際追加をお願いしたいというわけでございます。

備品費が九万五千円、これは先般消防署にお願いいたしまして、消火器や薬品やつめかえと同時に訓練の実施をいたしたわけでございますが、この際署から勧告がございまして、消火器の増設を要望されまして、これとテレビがだいぶ古くなりまして、こゝう修理を実施いたしまして従業員や娯楽施設として回しまして新たに十九インチのものも設置しましてさらに従業員室が二つございまして、従業員室の一方に随時持ち込まれる形とさらに試験的に室にお客さんや要望で持ち込まれるような形を試験的にやってみようということとでマイクロテレビということも考えておるわけでございます。

合計五十四万五千円が追加になりますが、この財源という

ましては、三十八年度からの繰越金が多過ぎます。で、この中から五十四万五千円繰越金を計上して充当するという形でございます。

次にユースホステルでございますが、これも当初計画よりだいぶ需用費において四十万円、賃金七万円、不足見込みを生じまして、これを追加をお願いいたしまして、これは歳入の方で当初計上額よりさらに伸びるというような予想がたちません。で歳出課目の方から給料二十万八千円、工事請負費から八万二千円減額補正いたしまして、賃金と需用費、合計十一万円の財源に充ちたいというものでございます。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)も質疑なしと認めます。

本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）異議なしと認めます。よつて本案は原案
となり可決いたしまして。

日程第三館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の
選挙を行ないます。

三二番（三沢節君）議事進行について動議を提出いたしたい
と思ひます。

ただ今議題とかりました選挙管理委員及び同補充員の
選挙に关しましては、昨年十二月十八日全員協議会にお
いてその選挙方統務委員会と議長に一任してあります
で選挙の方法は諸般の手続きを省略して自治法第
百十八条第二項の規定により指名推選の方法によら
ないこと、指名者は統務委員会委員長より指名して
いただくというところを議会運営協議会を代表して

提出いたします。よろしく御場の中賛成をたまわりたく
お願い申し上げます。

議長(黒川佐太郎君)ただ今、三三番議員君の動議は選挙
の方法は指名推薦 指名者は総務委員会委員長と
いうことであります。

おはかりいたします。

本動議に中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって動議は可
決されました。こゝより総務委員会委員長が指名を求め
ます。

(三三番議員登壇) (拍手)

三三番(高橋文治君)中指名にすぎましてただ今議題にさせて
おります選挙管理委員及び同補充員の選挙につきます

して僭越でありますが、私より総務委員会を代表いたしまして指名申し上げます。

昨年十二月十八日開催の全員協議会におきまして後任の選挙管理委員及び同補充員の選挙方につきまして、私ども総務委員と議長に申付託をいたさまいたうてあります。本年六月頃早速参議院議員選挙をほども、この委員の方々において大小各種の選挙が執行されますので、最適任者の中推荐申し上げるべく慎重に選挙委員会を行ないましたところ、委員をいたしまして秋山喜一氏、西井泰二氏、小柴孝氏、鈴木紀氏、四人の方々をなお補充員といたしまして、こゝまた広く適任の方材を得る見地から選挙をいたしまして、山口房治氏、本田兼吉氏、本橋憲太郎氏、小島頼母氏以上の四人の方々をもつとも、適任者と定めお願い申し上げます。

ることになりなつたのであります。

その補充の順位は、第一順位、山口氏、第二順位、本田氏、第三順位、本橋氏、第四順位、小島氏というふうに定め、まゝに次でございします。

委員会における選挙の経過並びに結果は以上申し上げましたとおりで、お手元に配付の印刷表により、各指名いたしまして。

はなはだ、簡単でございしますが、なにとぞ満場の出席を賜わりたくお願い申し上げます。次でございします。(拍手)

議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

ただ今、総務委員会委員長より指石のありましたとおり、おのり選挙管理委員及び同補充員の当選人に決めます。ゆゑ異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって管理委員
に秋山喜一氏、酒井泰二氏、小柴孝氏、鈴木紀氏補
充員に山口房治氏、本田兼吉氏、本橋憲太郎氏、
小島頼母氏、以上の方が当選されました。

なお補充員の順位は第一、山口氏、第二、本田氏、第三、
本橋、才四小島氏以上となり決定いたしました。
本臨時会は、これをもちて閉会いたします。

午前十一時四十五分閉会

本日の会議に付す事件

一 議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝 館石伝蔵

田中 祿郎 秋山大三郎

田村 源治郎 望月照正

安西 益男 辻田 実

石井 正 黒川佐太郎

菊井 敏博 志村信作

関 武夫 西村真次

藤田 好治 保科忠夫

江田 徳太郎 君塚喜三

中村 省吾 島野茂樹郎

萩生田 七郎 鈴木 孝

鳴田 繁 山田教宇

鈴木市蔵 安藤亀吉

安沢徳順 三沢 節

高橋 文治 山本 昇

松本 藤太郎 山口 康

昭和四十年一月二十二日

右会議次第を録しここに署名す。

館山市議会議長 三川 俊太郎

同 署名議員 志村 信作

同 鳴田 繁

